

## 今週の為替相場見通し(2018年11月19日)

| 総括表              | 注           | 先週の値動き                             |                  | 今週の予想レンジ                           |
|------------------|-------------|------------------------------------|------------------|------------------------------------|
|                  |             | レンジ                                | 終値               |                                    |
| 米ドル              | (円)         | 112.65 ~ 114.21                    | 112.82           | 111.50 ~ 113.80                    |
| ユーロ<br>(1ユーロ=)   | (ドル)<br>(円) | 1.1216 ~ 1.1420<br>127.50 ~ 129.23 | 1.1419<br>128.86 | 1.1300 ~ 1.1550<br>127.50 ~ 129.50 |
| 英ポンド<br>(1英ポンド=) | (ドル)<br>(円) | 1.2725 ~ 1.3072<br>144.26 ~ 148.73 | 1.2839<br>144.79 | 1.2750 ~ 1.2950<br>143.50 ~ 146.00 |
| 豪ドル<br>(1豪ドル=)   | (ドル)<br>(円) | 0.7164 ~ 0.7338<br>81.39 ~ 82.90   | 0.7333<br>82.73  | 0.7200 ~ 0.7400<br>81.00 ~ 83.50   |

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替営業第二チーム 藤巻 龍太郎

(1)今週の予想レンジ: 111.50 ~ 113.80 円

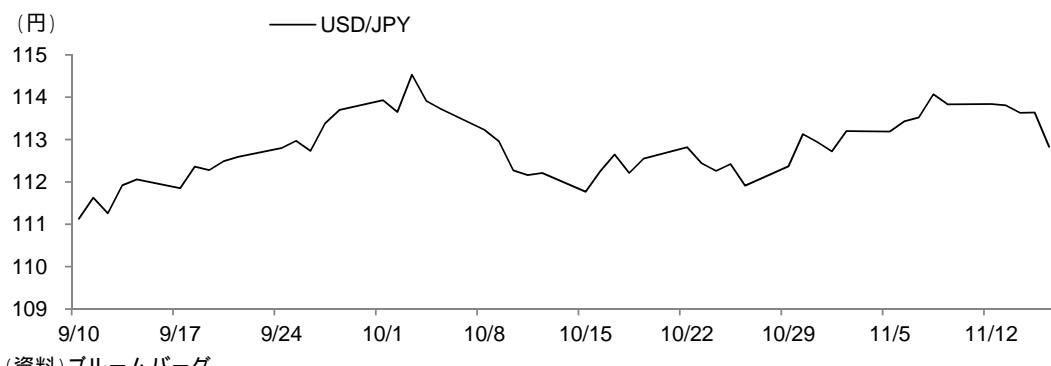
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、週後半に下落する展開。週初12日に113円台後半でオープンしたドル/円は、NY市場が休場となる中、中国株が上昇し、下落して始まった日経平均株価も前日比プラス圏まで回復したこと等を材料にドル買い優勢地合いとなり一時週高値となる114.21円をつけた。しかし、欧州株が大きく下げたことから113円台後半まで反落。13日は前日の米株下落を受けて日経平均株価が一時700円超急落したことから113円台半ばまで続落したが、中国副首相が米国と貿易について再び協議を開始するとの報を受けて114円台前半まで反発した。その後はブレグジットを巡る報道に113円台後半を上下する展開。14日は2名の英大臣の辞任が伝わりポンド売りドル買いが優勢となる中で再び114円に乗せる場面も見られたが、英閣僚会議でメイ英首相は支持を得られるとの見方からポンド/ドルが上昇するとドル/円は113円台半ばまで急落。さらに、閣議後にメイ首相は声明を出さないとの報道を手がかりにポンド/円が下落する動きに連れ113円台前半まで続落した。15日は英ラープEU離脱担当相が辞任することが明らかになったことやクロス円の売りが強まる展開に113.10円をつけたがその後反発し引け。16日については、英ポンドの上昇やFRB高官のハト派発言等により、ドル/円は一時週安値となる112.65円まで値を下げ、112円台後半で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を想定。中間選挙を無難に乗り切り、景気も良好であることからドル/円は再度上昇に転じると想定していたが、状況は異なっていた。株が依然としてボラタイルに推移し、金利は短期セクターで調整が見られるなど、リスクオン相場とはほど遠い状況。ドル/円が底堅く見えるのは、ドル以外の通貨に売りが入っているだけで、多くの通貨でショートポジションが溜まる中、いつ買戻しが入ってもおかしくない。リスクは原油が下落する中、インフレ期待が後退するなどして、米の追加利上げ期待が後退することか。一方、米中改善の関係がより進む場合はドル/円の上昇要因かもしれない。注目材料としては、19日(月)にウェザーリアムズNY連銀総裁の講演、そして20日(火)に10月住宅着工件数が発表される。

(3)先週までの相場の推移

先週(11/12~11/16)の値動き: 安値 112.65 円 高値 114.21 円 終値 112.82 円



## 2. ユーロ

為替営業第二チーム 岡本 明生

(1)今週の予想レンジ: 1.1300 ~ 1.1550 127.50 ~ 129.50 円

## (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

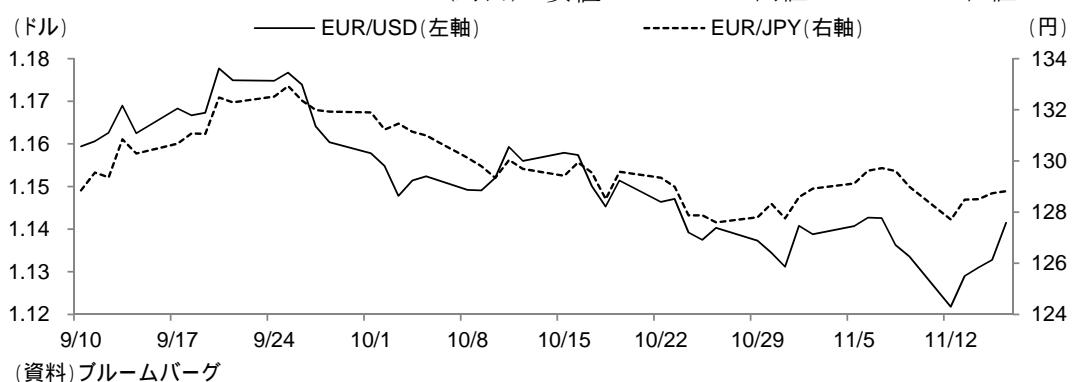
先週のユーロ/ドル相場は、下に向って来いの展開。週初12日に1.13台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米国の利上げ継続観測からドル買いが続いたことや、EUが予算を巡りイタリアとの対立激化を辞さない姿勢を示したことがユーロ売りを促し1年5か月ぶり安値となる1.1216をつけた。13日はブレグジット合意期待から下げ渋り、その後ブレグジット草案で合意と報じられると1.12台後半まで反発。しかし、イタリア政府が来年の財政赤字をGDP比2.4%と予想案の主要部分を維持しEU側の修正案提示に応じない姿勢を見せたことから1.12台半ばまで反落し、その後再びドル売りが強まる1.12台後半まで回復した。14日はイタリア財政に対する懸念が続く中、独7~9月期GDPが予想を下回り1.12台後半まで値を下げたが、短期的な買い戻しが急速に強まり1.13台半ばまで値を上げた。15日は英ハードブレグジット懸念から1.12台後半まで下落したが、ゴーブ英環境相が辞任と報じられる(後に辞任せと表明)とユーロ/ポンドが上値を試す動きにユーロ/ドルは下値をサポートされ、1.1363へ上昇した。16日のユーロ/ドルは1.13台前半で推移も、クラリダFRB副議長やカプラン・ダラス連銀総裁が世界的な景気減速に言及しドルが急落する展開に、ユーロ/ドルは約1週間ぶりに1.14台を回復。一時週高値1.1420まで上昇し、結局対ドルで1.1419、対円では128.86で越週した。

今週のユーロは、政治イベントを睨みながら小じっかり推移する展開を予想する。ブレグジットの英政治混乱は当面続く可能性が高く、対ユーロでのポンド売りが引き続きサポートとして機能しよう。一方、イタリア予算を巡り21日(水)に欧州委員会は過剰財政赤字是正手続き(EDP)を勧告する見通しとされており、ユーロの上値は限定的か。しかし、勧告後2週間以内に欧州議会が審査するプロセスを経るため即座に影響は出ないことから、市場が過度に反応することはなかろう。ドル高も一服した感があり、他市場の材料を受けてユーロは堅調に推移するのではないか。

## (3)先週までの相場の推移

先週(11/12~11/16)の値動き: (対ドル) 安値 1.1216 高値 1.1420 終値 1.1419

(対円) 安値 127.50 高値 129.23 終値 128.86



### 3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1)今週の予想レンジ: 1.2750 ~ 1.2950 143.50 ~ 146.00 円

#### (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

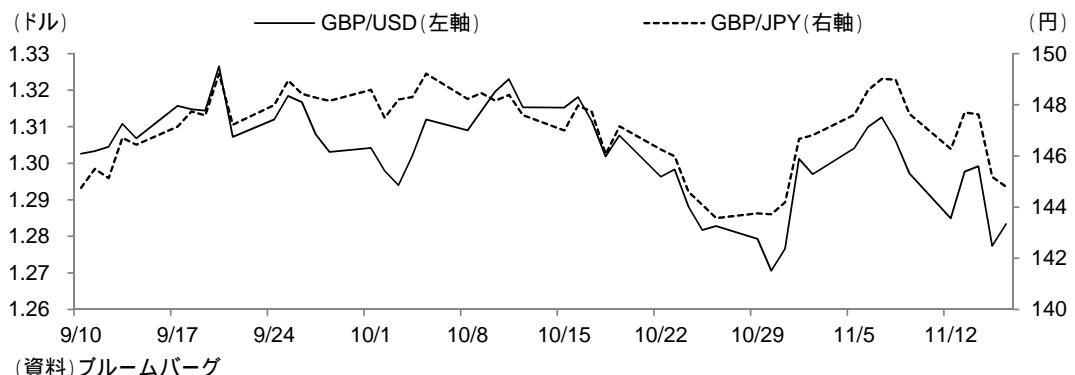
先週の英ポンド相場は、堅調気味の横這い先行から、15日以降水準を切り下げ。英のEU離脱交渉に絡む思惑に踊らされる一週間となった。13日、「英とEUが離脱協定の内容で合意」との報が伝えられると、半信半疑ながらも、ポンドはじわじわと水準を切り上げた。市場が半信半疑だったのは、EU離脱後、時限的に英全土が残留するEU関税同盟・単一市場から、将来的に英が離脱する際の判断は、EUとの協議で下される(英が単独では決められない)との内容が、与党保守党強硬離脱派議員の支持を取り付けられないとの見方が強かったからだ。翌14日の閣議に前後しては、「(相次ぐ辞任で既に強硬離脱派がほとんど残っていない)閣内の合意ぐらいは取り敢えずとりつけられるのではないか」との楽観と、「(最低3時間と予想された閣議が5時間超に及んだことで)意見の集約が難航している」との警戒感とが交錯し、ポンドは細かい上下動を繰り返した。その後、メイ首相が閣内の合意を取り付けたことで、ポンドは一時堅調に推移したが、翌15日までに、ラーブEU離脱担当相やマクベイ雇用・年金相らの辞任の報が伝えられ、ポンドは急落。更に、ゴーブ環境相が離脱担当相への就任を拒否したこと、「ゴーブ環境相も辞める」との観測が強まり、ポンドは続落した。16日には、ゴーブ環境相が大臣辞任の意思がないことを確認、ポンドは対ドルではじわじわと水準を切り上げたものの、対円、対ユーロでは軟調のまま週の取引を終えた。この間発表された英経済指標は、13日の英7~9月失業率(ILO基準)、14日の10月CPI、15日の英10月小売売上高などが揃って市場予想を下振れたが、離脱交渉の顛末に右往左往するポンドが、材料視した様子はほとんど読み取れなかつた。

今週の英ポンド相場は、引き続き英のEU離脱交渉の動向に注目しながら、方向感を欠いた膠着を予想。EUは25日(日)に臨時閣僚理事会(サミット)を開催する予定とのことだが、その内容は、10月までに言っていた「英との離脱合意内容を(首脳レベルで)承認するため」ではなく、「合意なき離脱への対応を協議するため」との観測も聞く。前例のない交渉の成り行きに、何が事実で、何が観測なのか、判断のつかない状態が続いている。英与党保守党の強硬離脱派議員は、15日以降、次々と「党首不信任の書簡」を保守党委員会に送りつけおり、仮にサミットを開いても、その時点で当の交渉相手(英首相)の立場が宙に浮いている可能性も想定できる。書簡の数は、16日の時点で「21通が確認済み」と伝えられているが(不信任投票実施には48通必要)、「来週中にも(48通集まる)可能性が高い」との党院内総務の発言も聞かれている。党員投票を経て、不信任成立となれば、保守党党首選=首相交代となるわけで、EU離脱を4か月後に控えて、政治に空白が生まれることが、離脱交渉を好転させるとはまず考えられない。合意なき離脱の可能性が一段と高まる事になろう。また、仮にメイ首相が保守党内をまとめられたとしても、英議会でEUとの合意が拒絶される可能性も十分に高いと考えられている。そうなれば、今度は解散総選挙への道が開けるはずだ。一方で、混迷が深まれば深まる程、「やり直し国民投票」の実施を求める声が強まるのは、最終的には好材料になると考えることもできる。これだけ不透明感が強く、これだけ思惑が交錯した状況で、ポンドが明確な方向感を打ち出すような展開は、ほとんど有り得ないと言って差し支えないのではないか。

#### (3)先週までの相場の推移

先週(11/12~11/16)の値動き: (対ドル) 安値 1.2725 高値 1.3072 終値 1.2839

(対円) 安値 144.26 高値 148.73 終値 144.79



## 4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 今村 加奈子

(1)今週の予想レンジ: 0.7200 ~ 0.7400 81.00 ~ 83.50 円

## (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

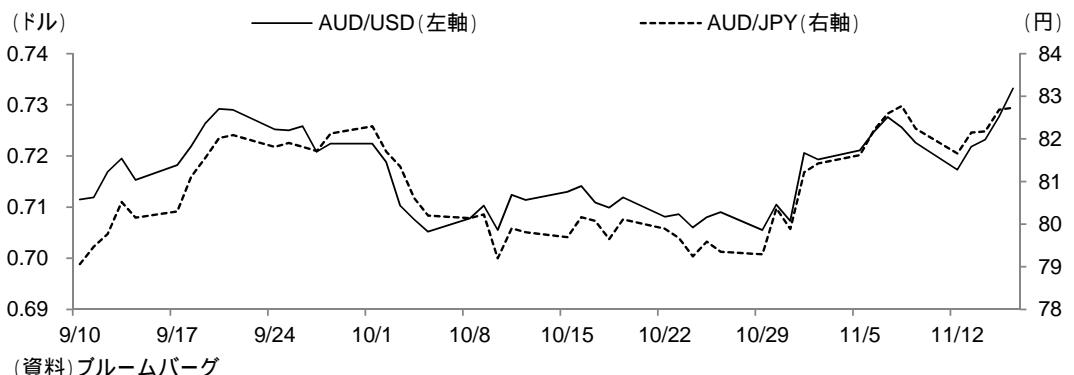
先週の豪ドル相場は、良好な豪州雇用統計を受け0.72後半へ上昇した。12日、豪ドルは0.72前半で取引始まり、しばらく材料探しの様相となり同水準での商いが続いた。その後、欧米株式の大幅な下落を嫌気し0.7200をテストし0.71後半へ小反落となった。13日、今月末の米中首脳会談前に中国副首相が米国訪問の報道を受け貿易摩擦解消の期待浮上、豪ドルは見慣れた0.72前半へ小幅上昇した。ここ最近注目されている英国の欧州連合(EU)離脱交渉では、英国とEU交渉官が英EU離脱草案で合意が報道され、英メイ首相は英国閣議や議会で承認プロセスへ、欧州連合は11月25日にEU首脳会議で承認協議が注目されている。その草案合意は市場で好感され、豪ドルでは0.7200サポートとなった。14日は豪州7~9月期の賃金指数が発表され、前年比2.3%の結果は予想通りだったため市場反応はなく0.72前半で保合いとなった。その後、欧米株式の下落を受けリスク通貨豪ドルは一時0.71後半へ小緩む局面があったが、英国閣議で英国のEU離脱草案を承認の報道を受け、再度0.72前半へ上昇した。15日、良好な豪州10月雇用統計の結果を受け豪ドルは0.72前半から0.72後半へ急伸となった。豪州就業者数は予想より高い32.8千人増加、失業率は予想5.1%より低い5.0%(前月と同水準)と7年ぶりの低水準は好感された。その後、豪ドルは0.72半ば~0.72後半での商いが続き、FED当局者の慎重な世界的経済成長が注視され、豪ドルは0.73前半で取引を終えた。先週の豪ドル/円相場は、81円台から82円台での推移を示した。12日、豪ドル/円は82円前半でオープン、82円半ばで上値塞がれ、軟調な株式市場を受け下値トライし81円前半へ下落した。その水準では値ごろ感からまとまった買いが散見され81円半ばへ上昇、英国のEU離脱交渉で草案合意の報道を好感し82円前半まで上昇した。しばらく82円を挟んだレンジ推移が続いたが、15日の豪州10月雇用統計の好結果を受け82円後半へ急伸した。その後、豪ドル/円は82円前半~82円半ばでの取引となった。

今週の豪ドルは、0.72台から0.73台へレンジを切り上げできるか注視される。英国のEU離脱の草案に関し、英国議会とEU首脳会議で承認が得られるかどうかが市場の焦点となっている。その結果次第で株式を含めリスク回避かリスク選好かどちらに傾くか、それが豪ドルへ影響してくるだろう。また、20日(火)は豪州準備銀行(RBA)理事会の議事録発表があり、同日にロウRBA総裁の講演が予定されている。22日(木)は米国の感謝祭祝日であり、週後半は市場参加者はやや細る傾向にあるだろう。今年は総じて下値テストが続いていた豪ドルであるが、今月初旬の豪ドル0.70後半から先週は0.73前半までもみ合いながら戻してきている。今週の豪ドル0.73台を維持し上値テスト継続できるかどうか注目される。今週の豪ドル/円は83円へさらにレンジ切り上げできるかどうか。

## (3)先週までの相場の推移

先週(11/12~11/16)の値動き: (対ドル) 安値 0.7164 高値 0.7338 終値 0.7333

(対円) 安値 81.39 高値 82.90 終値 82.73



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。